滿洲日報

集市元豆六吊百至六三吊二百
紅糧價錢五吊四百文至五吊
集式共上車三十餘輛
邊擬共來七十餘輛
元實水吊九百至六吊八百

全 全	全	同十一圓
全	九罐入	同五圓
全 全	全	同四圓
赤味噌	大樽	同九圓三十錢
札幌麥酒	四打入	同九圓八十錢
蜂印香竄葡萄酒	全	同二十二圓五十錢
全 清	全	同二十三圓
筍	二打半	同八圓五十錢
梨	四打	同十一圓
桃	全	同九圓五十錢
人形ミルク	全	同十二圓五十錢
一中等塊炭	全	五圓五十錢
一全 切込	全	十四圓五十錢
澤鶴	正味四斗四升入	十七圓
サツポロビール		九圓七十錢

（宅合名會社調査）

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

告料 一ヶ月以上 一ヶ月以內 長期連揭減價面議 每十五仙乃至十八
發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社（電話二九番）

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人幷無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登一月者每行每日一角登長年者價當面議從減 每張四百文

告示

關東總督府
陸軍大將男爵 大島義昌

出示曉諭事照得橫濱正金銀行向於上海天津牛莊等埠專爲利便交易起見發行銀元鈔票所有納欵諸凡交易均用該票無異銀元通用極便商賈爲之暢通實於商務有益己爲人所共知也及至滿洲前爲兵燹之區我日本軍隊使用軍票是以該銀行暫行緩發者也日俄和平滿洲一帶全歸安靖商務亦將見其盛日之興旺我軍隊隨即逐漸撤退所發軍票亦應收回於是橫濱正金銀行茲奉我日本政府允准一面再行發票一面置銀備換以便商務而資滿洲貿易之發達爲此示仰各色旗民紳商等一体知悉爾等嗣後即將該銀行所發鈔票視同軍票均須通用勿得懷存猜疑可也倘有奸謠之徒謠言惑衆碍難通用以博漁利者一經查出立即從嚴懲辦決不寬貸各宜遵照無違特示

明治三十九年一月

告示

橫濱正金銀行ハ從來上海天津牛莊等ニ於テ諸般取引ノ便利ノ爲メ銀ト引換ヘキ一覽拂手形ヲ發行シ來リシカ右ハ各種ノ公納其他一般商業上銀貨同樣ニ使用セラレ流通圓滑ニシテ金融ノ疏通ニ資スル處多大ナリシハ業ニ已ニ普ネク知ル所ナリ曩キニ滿洲ノ地戰爭ノ區トナリシニ際シ日本軍隊ハ主トシテ軍用手票ヲ使用セシヲ以テ橫濱正金銀行牛莊支店ニテハ一時一覽拂手形ノ發行ヲ見合ハセシモ今ヤ平和回復シ滿洲ハ茲ニ全ク安靖ニ歸シ商務モ亦正ニ舊日ノ旺盛ヲ見ントス而シテ漸次軍隊ノ裁撤セラルヽコトニ從ヒ軍用手票モ亦之ト伴フテ交換回收セラルヘキヲ以テ橫濱正金銀行牛莊支店ハ再ヒ一覽拂手形ヲ發行シ舊ノ如ク商務ノ便ニ供シ益々滿洲貿易ノ發達ニ資スル所アラントス右一覽拂手形ハ日本政府ノ認許ヲ得テ發行シ銀貨ヲ準備シ隨時交換ノ用ニスルモノナルヲ以テ汝等人民ハ之ヲ信用シ軍用手票ト同一ニ公私一般ノ取引ニ受授通用シテ毫モ疑アルヘカラス若シ夫レ奸譎ノ徒妄ニ浮說ヲ流布シ流通ヲ妨害シ以テ利ヲ博セントスルモノアラハ立トコロニ嚴罰ニ處シテ決シテ假借セサルヘシ各遵奉シテ違フ勿レ特ニ示ス

明治三十九年一月

關東總督男爵 大島義昌

三井洋行

倉庫部

●精製白砂糖新入荷物あり

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均著物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷者

今回倉庫所在地（齋堆子糖搗上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候（電話百二十八番）

宅合名會社分莊

本號前在營口東營元帥廟街自造日本酒澡盆印幷一切雜貨其名譽已傳播於滿洲全地今又擬在西營子老爺閣街同順棧內分設支店一所發賣綿紗粗布火柴絲布絨衣棉布手巾花巾東洋綢子洋燭表貨物俱全而價値尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請屆臨爲幸

總司理人 田中賴之助謹白

꙳東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並匯兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口東西兩處自建碼頭艙泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船一船裝卸貨物極爲利便圖貯油餅豆米麥更爲合宜倘有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉貴客賜顧請到小號面議是荷

總司理人 葉亮卿謹白

꙳東永茂

橫器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祗做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之

正理事 潘玉田 副理事 余德魁

設在營口西北街路南

꙳西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞

本主人敬啓

꙳仁裕號

係裝運各幇火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈

營口西大廟街路北警乙第十三號

꙳恒有長

本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價値格外從廉克己幷另設銀爐包營銷鑄以應急需久爲中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

꙳元茂盛

油坊買賣元荳荳油荳餅雜色粮石以及代客購辦雜貨布疋一槪發行裝運沙船交易南北客商歷有年矣爲此謹白

開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

꙳代代米烟公司

本行專售 日本官造紙烟 星象牌（斯違）櫻花牌（捷利）百合花牌（利利）均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（騰沽來福）淸香撲鼻佳美適口而價値極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
橫濱 神戶 東京 長崎 大阪
倫動 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺

橫濱正金銀行牛莊支店

電話 百八番 事務室 十番 支配人室

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也

松茂洋行商業部

河岸通（電話五十二番）

滿洲日報各地賣捌所
滿洲日報廣告取次所

大連市監部町三百三十八號 日華運輸公司
大連市壽城町四十九番地 岡野新聞舖
奉天大南門內景祐宮胡同 全泰號
遼陽 遼陽俱樂部 谷口今朝太郎

森病院

一診察 自午前八時至正午十二時 自午後三時至午後五時
一往診 午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任產婆大道しげ子）

院主 森繑
醫長 鈴木昌平

營口永世街（電話一五五番）

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿洲一手輸入發賣

江副洋行

營口永世街

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候

三井物産合名會社
牛莊支店
（電話六十六番）

꙳和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、銃子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一槪俱全價値格外從廉克己、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、

大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

꙳田中牛莊分莊

啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉 賜顧者請光臨本舖面閱是幸

田中牛莊分莊謹啓

材木販賣
荒物

秋田洋行

營口永世街第一八四號平野町、
本店 下關 秋田貨之輔商店

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天塩木料及阿南訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名國境以之構造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本號東營口元帥廟街本工程局面議不佩再本十新到各種木料東洋炸子貨具價實以副各主顧局衆之需 本主人啓

雜貨卸商

在元神廟營口街

關東公司雜貨部

代理 道勝銀行

啓者本行代理道勝銀行匯兌以及押欵借欵等項格外公道如蒙賜顧請移玉本行帳房面議可也

德商 瑞記洋行代理人謹啓

東京電報

●豫算分課會の豫算案決定　本日衆議院豫算分課會に於て左の如く決定せり

臨時事件豫備費の内五百萬圓及陸海軍復舊費の内五百萬圓を減じ其他は總べて原案通り決定せられたり

●滿洲經營調査委員任命　兒玉陸軍大將、石本陸軍、珍田外務、若槻大藏、仲小路遞信の各次官及山座政務荒井主計の二局長は孰れも滿洲經營調査委員仰付けらる

●滿韓陸海軍費の可決　滿韓陸軍費一千萬圓全海軍費四百二十七萬圓支出の件無事可決せり

●滿韓經營費の可決　滿韓經營費として百八十萬圓を支出するの件も亦無事通過したり

（以上二月七日發電）

●新任陸軍大學校長　陸軍少將井口省吾氏は陸軍大學校長に補せらる

●參謀本部總務部長　參謀本部總務部長には岡市之助氏補せられたり

（以上二月八日發電）

倫敦電報

●巴里の倫敦市會議員歡迎　倫敦市會議員の一行は巴里に於て盛に歡迎され仝一行の爲めに催ふしたる巴里市役所の宴會に於ては主賓共に最も親密なる演說を爲せり

●米國の淸人認定廢止　米國政府は淸國人に對する入國規則を改正し人物認定の制度を廢止せしを以て自今淸國人にして米國に入るものは遲延なく許可せらるへし（二月七日發）

●巴里市民の歡迎景況　巴里市民は倫敦市會議員の一行を優待して熱心溢るゝばかりなり市中は祭禮の如くにて各寺院は仝一行の滯在中混雜を避けんが爲めに壇徒の記名を中止するに至れり

●香港監督と黄色論　在香港監督ホーア氏はロイテル通信員に會見して曰く余は世間の所謂黄色禍なるものを信せず然れとも黄色人種の滁州及び加奈太地方に群集すへきを知る而して淸國現下の狀態は彼の北淸事變以前より一層恐るへきものありと

●墺國に對する宣言書　ハンガリア同盟會は墺國に對する其位置を言明せる宣言書を發布せり之れに對する一般國民の感情は區々にして多數の者は相互の退讓に據り墺斑兩國の關係の平和的に解決せんと欲するが如し

（以上二月六日發電）

雜報

●機關官名稱變更理由　海軍部内の宿論たりし機關官名稱變更の儀は此程漸く解決されたるが右機關官の職務は機關の運轉は勿論艦船の操縦より時に隨意行爲を執る等寧ろ普通將校と密接の關係を有し他の造兵造船及び軍醫、主計等に比し全く執務上特別の相違あるに依り即ち名稱改訂の必要を認めたる次第にして從つて其待遇上將校に準じたる服制に變更されたる次第なりと云ふ因に英米海軍にては夙に是等の名稱を用ひ居れりと云ふ

●浮流水雷に懸賞　昨年四月中北京外交團は淸國政府に對し北淸沿海の水面に浮流する水雷を搜索破壞して列國艦船の危險を防がれ度き旨を交涉し上海領事團に於ても同樣の希望を具申しありしが淸國政府は爾來軍艦三隻商船十一隻を以て是れが搜索に努め尙金二千兩を褒賞として水雷一個を發見したる者に與ふることゝ定めたる旨今回奉皇島登州芝罘榮城等の各地に之を布告したる由其筋に報告ありたり

●歐米の新内閣歡迎　西園寺新内閣組織せらるゝや歐米の各新聞紙、雜誌は筆を揃へて同情を表し殊に首相の政見發表せらるゝや孰れも熱心なる好意を以て西園寺内閣の前途を祝[illegible]せり斯の如きは近年多く見ざる所なりと歐洲よりの近信に見えたり

●露國俘虜還送延期　露國政府は本邦に在る俘虜を本國に輸送せんが爲め六隻の汽船を使用し居りしが右の中二隻は大破損を生じたる爲め本邦に在る露國俘虜は二月七日を以て輸送濟の豫定なりしも多分約一箇月間延引すべしと云ふ

●滿洲博覽會計畫續聞　過般來東京、名古屋、神戸、大阪、京都の五商業會議所間に滿洲に於て博覽會開設の議起り經費其他の調査をなしたるとは其節報道せる所なるが今回石塚民政長官の上京を機とし同氏にも交涉したる所同氏も之を賛成し民政署より四萬圓位の補助金を交付すへしとの事なりしかば一同も大に力を得て商業會議所は管内の有力者と打合せの上更に合議する事となれりと云ふ

●我艦隊の英國皇甥奉迎　ガーター勳章御贈進の爲め御來朝の英國コンノート家のアーサー親王殿下には來る二月十四日巡洋艦ダイアダム號にて香港御發航本邦へ向はせらるゝ御豫定に付威艦隊は御出迎として途中に奉迎の上、御乘艦に供奉して横濱に來る筈なりと

●新東洋航路　獨乙語新聞の報する所に據れば彼阿汽船會社は本月三日より毎月二回漢堡と印度との間に定期航海を開き大に運賃を輕減して之に從事せんとの計畫なるが之が爲め同會社とハンサ汽船會社との間に運賃の大競爭を見るに至るべしと云ふ因にハンサ汽船會社は千八百八十年頃の創立に係りブレーメンに本社を置きブレーメン、漢堡等より印度其他南亞弗利加に定期貨物航海をなし汽船四十五隻を有する會社なり

●宮[illegible]　周宮御養育主任樞密顧問官正二位勳一等伯爵　佐々木高行
富美宮泰宮御養育主任樞密顧問官從二位勳一等子爵　林友幸
免　佐々木伯、林子兩御養育主任に對し同の如く御沙汰ありたり
老年に付特旨を以て宮中杖差許さる

●霞ケ關離宮　霞ケ關離宮の御裝飾は昨年來室内裝飾家小林義雄、杉田幸五郎の兩氏御用を承り目下取急ぎ施工中にて先月中に悉皆竣功の筈なりしが右は本月御來朝の國賓英國皇族コンノート殿下の御旅館に充らるゝならむとのと

●儒者の自害　忠淸道天川の儒者にて多少名望ある宋秉駿なるもの先頃京城に來り時局に反對の上奏を爲さんとて宮中に入りしも韓皇よりの勅諭に依り數日前其郷里に送還されたるに其歸途太田附近にて陰暦の除夜鴉片を飮み自殺せりと

●淸韓貿易調査委員會　大阪商業會議所の同會は會合を催し過般南北淸を視察したる森、中村兩書記の報告あり爾後毎月一回宛貿易通報を發行して同地方の事情報道に兼て南洋方面の事情をも紹介すといふ

●陸軍大學校期　陸軍大學校は愈々來る四月一日より開校することゝなりたるを以て同校學生にし各部團隊に屬し出征中のものは其所屬隊の期日如何に拘はらず四月一日迄に着京し得る樣、歸還せしむる筈なりと

●米人ケナン氏の談話

▲非律賓賣却說　こは非律賓總督ライト氏が日本駐剳大使に任命せられたるより或る新聞紙が臆測的に推論せるものにして今日米國政府か假令日本の如き友邦に對しても該島を賣却するが如きことあるへき筈なし又斯の如き事は米國々民の許容せさる所なり昨年米政府かタフト氏一行を非律賓に派遣せしは該地に對して深き干繫を感せるか爲にして即ち米國は非律賓に對しては殖民經營の新機軸を試みつゝあるものなり蓋し各國の殖民經營其地方の財源を開發し本國の資本家事業家に入り込みて各種有利の事業を起すを第一の目的とし來りたり之に反して米國の非律賓經營は非律賓人をして産業上の繁榮の程度を高からしめ又政治上自治機關を運用するの能力を得せしめんとするを方針とし即ち非律賓人か米國主權の上にありて繁盛し滿足するに至り其結果として米本國の貿易上其他の點に於て多大の利益を受くるに至らんことを希望せるに外ならす是か爲め現在既に完全なる敎育制度を施き米國人にして敎員として非律賓にあるもの五百人の多きに及へりされば此一種の試驗最中に於て之を外國に賣却するか如きは米國人の思ひも寄らさる所にして過日の外電の無根の風說たる固より言を要せさるなり

▲淸國事情　予（ケンナ氏）は先頃來二ケ月程北京に滯在して該地の事情を研究せしか北京滿洲市街に於て近時道路の改修を爲し美事なる大道の續々築造せらるゝか如きは注意すへき事なり淸國人間には目下改新主義と保守主義の二大潮流ありて到る處相衝突せり保守主義は淸國舊來の制度文物の保存を主張し改革に反對するものたるは言を要せさる處なるか改革主義は日本の勃興に鑑みて淸國を革新し一大强國と爲さんと欲するものにして新式軍隊の訓練等一の流行物たり然れともかくの如き改新により淸國が直に强大國と爲り得べしと想像するは固より誤解にして予を以て之を看れば其議論多く架空の樓閣たるを免れす如何となれば日本の改革は外國の文物を採り其短を補ひしと云ふに止まらすして此新文物を運用すへき一の精神的要素の既に備はれるものありしに反し淸國に於ては軍治上にも政治上にも殆と愛國的犧牲の精神なし語を換へて之を云へは日本には武士道の精神ありて國家の元氣を成せるも淸國には殆と其痕跡たも見る事能はす有力者は交も利を征し自己の勢威を扶植せんとするに急にして國家の爲め一身を犧牲とするか如き精神は毫も之を認むるを得す故に假令文明的政治機關を設くるも又文明的軍隊を組織するも國家の元氣缺乏せるを以て所謂勃興と云ふか如き決して短日月の間に之を期すへきにあらさるなり

▲日本の敎育制度　現在の日本の敎育制度は異に善良なり其完全を望まは固より改善の餘地多かるへきも國民をして實業上其他國家の興隆に必要なる技能を養はしむるに於て尤も効果ある疑はす近時中學卒業生の多くか大學敎育を希望せすして寧ろ實業敎育の方面に進む傾向あるは日本國民か其境遇に順應するの徳性を示すものと云ふへし上海に於ける東亞同文學院の如き淸國貿易に關する智識を學課以外實際に目擊せしめ其卒業生か淸國の各港を巡回して事情を視察する等は將來日淸貿易の發達に資する處甚だ大なるへし但し予の視察したる結果によれは中學校に於ける英語の敎授方法は讀書力を養ふに充分なるも會話の練習には缺くる處あるもの丶如し日本學生の英語作文を見るに其手蹟及ひ綴字に於ては寧ろ米國の同等の學生に勝る處あるか如きも會話に於ては尙大に敎養に力を盡すの必要あり京都停車場に於て乘車せる外國人を捉へて之に會話を試み熱心に其熟達を計れる學生あるを見受けたるかこれ等も會話練習の一方法として面白きものならん云々

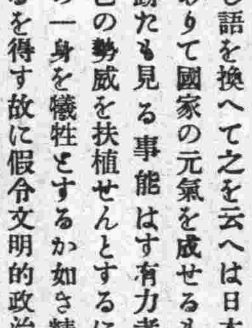
●東北窮民の滿洲移住　我が東北三縣地方の慘狀は世人の豫想以上にありて志士仁人の其救恤に盡力するも尙は遺憾あるを免れさる位なり然るに其救濟の一方法として彼等多數の窮民を滿洲に移住せしめんと奔走する有志あり現に堀江代議士の如きは過般來滿洲に來り其筋と談判の結果取敢へず窮民數百名を撫順炭坑へ移住せしむることに協定せりと云ふ頗る機宜に適せる救濟と云ふ可しなり

●第六十三聯隊の出發　牛家屯駐剳第六十三聯隊の大連守備に交代する事は屢々報道する所なるが後任部隊も既に到着したるを以て愈々昨日同地出發新守備地へ向ふと爲り當地よりは興倉長官始め其他官民の主なる人々は停車場迄見送りたりと云ふ

●第四回評議員會　既報の如く日本人會第四回評議員會は一昨日午后八時より開催せり當日は興倉司令官始め中村一等主計、長崎技師及び蠟山西稅關長等臨席せり議員の出席者は十有余名にして瀨川會長議長席に就き豫て配布の議案を逐條審議に附し種々協議をなし就中議件第二號案本會々費徴收に關する成績報告及び本會の維持に關する件に至つては各自夫れ〲意見を吐露し結局委員五名を會長より指名し調査報告する事に一決し其他重要事件に付種々協議ありて全く閉會せしは十一時頃なりき

●窮民救恤と宗敎家　本社が東北三縣救恤義捐金募集を發表するや牛家屯なる基督敎靑年會軍隊慰問部主事佐藤庸男氏及營口永世街西本願寺出張所主任寺本泰巖氏は大に此擧を贊助せられ佐藤氏は牛家屯に於て寺本氏は當地に於て各々熱心盡力せらる筈なり本社は深く兩氏に感謝す

●藝妓仲居周易判斷　朴撿老



祇園閣　お新（ツトキ）
本名小木曾シム（明治八年一月二日生）

チヨイト先生妻は成程京都に居りました時に角帶に前垂掛けの商人さんに身を任せ茶屋を始めて居りましたが園木さんとかイヤハリましたが夫れは少々名前が違います、そして……をつと後は云はずとわかつたり〲お前さんの言はるゝ通りアレは愚老の間違じやつた……へゝへゝゝゝゝ弘法も筆の誤りじや勘辨さつしやれへゝ處でお前さんがてちらへ來た頃は未だ戰爭も雨になるや風に變るやら判らぬ時で營口も割合女が少なく爲にお前さんのやうな年增の角力見た樣でも芥溜に鶴が下りて來たやうに日本喰潰しの田吾作連が大騷ぎをやらかし大分お前さん懷を暖め毎月百圓位は親里へ送りもしたであらうがな、何が扨て本場仕込の腕は流石見上げた所がある昨年夏以來何でも三グース半位の男の生血を絞り揚げたであらう現に此頃お前さんの罠に罹つて居る鼻垂男は元松茂洋行とかの番的で若峽之助の家老職に因める加古川本藏誤親類筋と夫れから大阪歌舞妓俳優の一流成駒家と同姓異人の方此二本棒を日毎夜毎に操つり時折りお二方の衝突が起るで御座らうがな併しそこはお前さんだ電光石火其腕の凄さまじい事はとても海山二千年位の猫や狐の及ぶ所でない夫れ故此不景氣にも係らずお前さんばかりは不景氣知らず　日夜寢具（大枚七十兩を投じ紋縮子に絹紬の裏意氣なものでグ！スナ）のあげ間なしであらうがな、所で餘り烈しく切り廻す爲か今ぢやお前さんの評判が大分惡いさうじや餘り慾張つた事は愼しましやれ併しお前さんの感心なのは人をだまして親思ひと云ふ事ぢや二三年前から親の爲めに大變苦勞さつしやつたやうじや愚老もそれにはツク〲感服して居りますぞや

扨てこれから本易を見て進せるがお前さんの星は八白水性でな、易に取つては艮爲山の卦と云ふて父祖即ち先祖とか或は親の跡を取らず幼時から地方へ、出て家を持つ事が少ない、どちらかと云へは男勝りの方で女戸主などにならしやつて夫や親の世話にならず子供の一人二人は苦にせずに養育し出づる程の勝氣を持つて御座らしやるのぢや殊にお前さんは八白の井泉の水性であるから土尅水と云ふて八白より水の性を尅するやから至つて思慮分別淺い方ぢやに依つて萬事相性氣なる物を拒み變必を生ずることがあるぢや、それにお前さんは自体先へ進むてと丶か、仲媒、世話でと、見へ飾りなどが好きな方ぢやから常に心苦絕えず遂にはその爲めに躰を損じる事があるから用心さつしやいそれから相性も見て進せたいが又々例の仙氣で腰が冷えあがつたから今日は之れで御免を蒙る此次にゆつくりと來さつしやれ左樣ならアヽシンド骨が折れるわい

此次は〇〇〇の丶丶丶ヲツト天機は洩すべからず

●山金老夫婦の奇特　元祿銘酒元祿夫婦を以て有名なる平野町山金事山本金藏夫婦は職業柄に不似合なる其思想たるや實に高尙優美にして日々數十の來客誰一人として感心せさるはなし尙彼夫妻の間に二人の姉弟あり今は東京に遊學させ只管二子の將來を樂みに朝は暗き頃より床を出で夜は二時三時頃迄も店を開きて來客の舌打ちを無上の樂となして働けり加之我社に於て東北三縣の救恤義捐金を募集するや卒先して金三圓を本社に依頼し尙其社告を切り取り最も來客の注目する中央なる酒樽に全文を張附け其傍に「一杯の酒一本の煙草を節約して我同胞の饑餓を救ふの料にせられんことを」山金主人と大書し來客をして應分の義捐を仰ぎ十日間每に本社へ寄贈方を依賴すと誠に奇特と云ふべし

●本日の月蝕　本日は珍らしい月蝕である其時間は本日の午后五時十四分に皆既し始めて五時三十六分には下方に尖を生じ六時三十七分に復圓する併し是れは東京の事で營口では何うといふ事に爲るか分からぬが何んでも京都札幌は同じく皆旣である長崎は六分那覇は二分九厘の帶食ぢやげな寒むい空ではあるが物數寄者は顔を出して見るがよい

●でたらめ草　徳川三百年の太平は日本人の足を著しく短くした生活的情態の變遷に伴ふて人間の骨格亦其影響を受くるとは最早爭ふとが出來ぬ▲近頃進化論者の說に據ると人間が進歩するに從ふて男子が漸く女子に似寄つて來る野蠻の時代には男女の骨格が著しく相違して居たが近來は男子の頭蓋骨も又臀骨盤も漸次女性化して來るさうぢや▲現に二十世紀の新産物と目せらるゝハイカラ式の優さ男を捉へ來て其骨格を檢すれば骨格上殆と女子と男子との區別し能はぬ程に似寄つて居るさうである（△△坊）

汽車發行

▲上行車時刻表

車站名	午前開點分	午後到點分
新民屯至溝幇子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇
山海關至唐山	上一二、一八	下六、二〇
山海關至天津	上五、〇〇	下五、五五

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四一
北京至塘沽	下二、四〇	下八、三〇
天津至唐山	上[illegible]	下[illegible]

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間　下り列車

驛名	發着	時刻		
大連	發午前	九、〇〇		
金州	着	[illegible]〇九	發	一[illegible]二九
大石[illegible]	[illegible]	[illegible]		

驛名	發着	時刻		
遼陽	着午後	三、五〇	發	四、五五
大石橋	着	一〇、三二	發	一一、三五
金州	着翌前	二、二〇	發	三、一〇
大連	着	五、三二		

大連旅順間　下り列車

上り列車

驛名	發着	時刻
旅順	發午後	二、〇三
大連	着	五、三二

營口線　下り列車

驛名	發着	時刻
大石橋	發午前	一、〇〇
營口	着	一、五五

天氣

營口地方　自昨日午後六時至本日午後六時　北の風晴れ

社告

東北凶作地窮民救恤義捐金募集

東北三縣の凶作は國家近來の大慘事たり之を天保年間の大饑饉に比するに優るも讓らず各官廳及び地方有志は夙夜救濟の道を講ずと雖も窮狀日に益〻甚しく翅に地方自治機關の之が爲めに停止し國民教育の之が爲めに沮滯せるのみならず幾十萬の窮民坐して死を竢つ能はず山に木皮を拾ひ野に草根を掘り僅に露命を繋ぐに至る而も今や時冬天に會し饑寒交々至りて復た食と衣とを得るの道無く父母妻子東西に流離して乞丐と變じ餓莩路に横はるの慘劇將に臻らんとす是に於てか我内地に於ては東北三縣の舊藩主貴衆兩院議員等胥謀り東北三縣救恤會なるものを起し以て是等窮民振恤の方法を講じ在京各新聞通信社亦其舉を贊して均しく義捐金募集に着手せり我社固と涓埃の力敢て當るに足らずと雖も其慘狀を聞くや既に久しく同情の念轉々已む能はず遂に聲援を我同業者に致し以て幾多窮民が焦眉の急を救はんことを期す江湖の君子庶くは本社の微意を諒とし應分の義資を投せられんことを其規定左の如し

一、義捐金額は一人拾錢以上とす
一、受付期限は二月二十八日迄とす
一、義捐金は直に本社に送附せられたし
一、本社が受付たる義捐金は毎日正金銀行に保管預入を爲すべし
一、期限後は之を一纏めとし東北三縣救恤會に送附し其配分方を托すべし
一、義捐者人名は本紙廣告欄に掲載し受領證に代ふ

明治三十九年二月七日

滿洲日報社

雜報

東清鐵道と遼河

（久保日鐵會社經理部長談）

昨年十二月頃と覺ゆ、憶か中外商業新報に遼河と東清鐵道との運輸上の比較に就き連載せられたることありき、其要旨は遼河の運賃頗る高くして、東清鉄道は能く遼河の運輸と競爭して勝を制し得べしと謂ふにあるもの〻如し。然れども其實例として引證したる、豆に關する運賃は、其結果方噸量と石量との換算上に誤算ありて、其結果方外なる高賃となりたるものにして、余は此の根本に於ける大誤謬を見ると共に、此記事は捨て〻又た顧みざりき。世人往々、運輸上東清鉄道を以て遼河に勝ると爲すと雖、余の見る所は然らす、東清鉄道は到底遼河に敵する能はさるを思ふものなり、其理由は他なし、運賃の低廉なると其一なり、積年の因習に由て河川を通路とせる貨物集散の狀態能く聯絡夥頓せると其二なり。此二理由に依りて、河川運輸の根底は眞に牢乎として動かし難きものなり。僅に表面上に現はれたる運賃の比較、發着の定不定、時間の遲速等を單純に對照して、其優劣を判斷し得るものにあらす。論より證據、今ま日本鉄道と北上川に就て實例を示さん、日鉄線は北上川に沿ふて併行せる所あるは、苟くも東北に旅行せるもの〻均しく知る所、而して日鉄線の敷設ありたる以來、日既に久しく、其間日鐵は種々の工夫を凝らして北上川の貨物を鐵道に吸収するの法を講したり。其結果果して如何と顧みるに、勿論北上川の貨物の幾分は之を鐵道に吸收したる事は事實なれとも、北上川の運輸は依然として衰へさるなり、甚しきは、今日猶は旅客舟にて北上川を上下せるを見る。是れ他にあらす、北上川の橋々のタモトには舟問屋あり、舟問屋と舟との關係、舟問屋と沿川地方の貨物の集散に任せる商人等、關係彼此聯絡密接して、多年の積習、容易に移すへからさるものあれはなり。亦た東京と聯絡せる利根の水運の如き然り。彼の堀割を通して隅田川に聯絡せる利根川の水運は、實に縱横に敷設せらる〻東武、總武、成田の諸鉄道の競爭現はれたる以來も、毫も衰滅せさるにあらすや、要するに、河川の運輸は其運賃の低廉なるに於て、多年來其沿線に結習せる商賣的聯絡に於て其優强なる、眞に想像の外にあるなり。

此兩者の關係には亦眞に上に陳述せる所を適用することを得べし。世人動もすれば、遼河は冬季氷結して舟行を閉止せさるべからす、發着時間一定せす、是等の不便は東清鉄道には絶へて之無きを以て、東清鉄道には遂に運輸上遼河に對して勝を制するを疑はすと謂ふと雖、是れ大疑問と謂はさるへからす。試みに思へ、遼河は滿洲唯一の運輸通路にあらすや、之を以て滿洲に出入せる貨物は古來悉く此河の運輸に依頼し、之に沿ふて商賣線亦た成立し、其最大の貨物たる豆類の收穫せらる〻や、其の遼河に向て集注し來るの手續方法等は、豆の賣買と共に多年の積習と相待て敏妙靈活を極むるは言を待たす、故に一本の鉄道たけ敷設せられたればとて、之に適ふて機關車其他車輛の備はるあればとて、直ちに之を以て、多年の積習たる遼河を中心として、整備せられたる、商賣組織を破壞するか如きは思ひも寄らさる所、されば、遼河を敵として、其貨物を東清鉄道に吸収せんとは決して容易の事にあらす、蓋し不可能に近き難事たらすんばあらす、果して然らば、東清鐵道は恐らく容易に經濟上有利たると能はさるや明白なり。

中橋氏の當世人物評

▲兒玉大將は既に角一流の人物だ、何れの方面にも融通が利く第一襟度が大で迫つた處がない、總理大臣としてもりつぱなものだ▲山本權兵衛氏は意思堅固で軍人としては手腕のある方だが政治家としては兒玉の方が一目上である、山本氏は人に對して城廓を設けるので子分が甚だ少い總理大臣になつても子分が少いから困難を感ずるだろう▲鶴原總務局長官は吾々よりは先輩でたしか十六年に大學を出たのだがなか〱の遣手である、併し遣方は極めてりつぱだが、締めく〻りが付かないといふ缺點がある、有爲の創業家ではあるが守成家ではない、▲小村君は磊落の性質であるがポーツマウスでは大に新聞記者を近づけなかつたのは確に失策である、併し講和條約は誰れが行つてもあの位のものだらう、日本國民は時局の半面しか知らないのだから種々議論が起きたやうなわけだ、併し談判の席上で主客轉倒の形となつてウヰツテの影のみ大きく寫つて小村氏が如何にも齷齪たるが如く見ゆるのは惜むべしである、▲在野の政客では總理大臣たるの資格あるのは大石正巳であるなか〱大きい處がある併し進歩黨にあつては容易に總理大臣になれまい▲尾崎は好箇の紳士だが少々凝り固まつた處がある、今後永く總理大臣としていつも候補に立つのは西園寺侯だらうと思ふ云々

廣告

公示

一、厚皮焼屑　二十貫匁
一、短靴焼屑　二十組
一、冬繻絆袴下焼屑　四百貫匁
一、カタン糸焼屑　三百個
一、羅紗焼屑　五十貫匁
一、焼屑鐵具類　三十貫匁

右明治三十九年二月十日午前十一時牛家屯兵站司令部に於て競賣ス依テ本日ヨリ現品ノ縱覽ヲ許ス牛家屯縫靴工班ニ付テ見ルヘシ

明治三十九年二月一日

營口兵站司令部

東北凶作地窮民義捐者芳名

一銀一圓　營口重盛街　大塚龜助
一金三圓　同香田屋洋行　片山鶴太
一金二十圓　同三井洋行　井上泰三
一金十圓　同　井上代志子
一金二十圓　同　遠藤藤二郎
一金十五圓　同　井上好徳
一金十圓　同　井上斧三郎
一金五圓　同　長谷川作次
一金五圓　同　江藤清治郎
一金三圓　同　內山米藏
一金三圓　同　佐々江嘉吉
一金三圓　同　後藤麟太郎
一金五圓　同豐濟門　山本藤樹
一金五圓　同　三船秋香
一金二圓　同東京館　村上京四郎
一金一圓　同　椎木安次郎
一金一圓　同　森川順助
一金一圓　同　左近允森之助
一金一圓　同　柴田まち
一金一圓　同　加藤よし
一金一圓　同　鹽飽たみ
一金一圓　同　池山すゑ
一金一圓　同　川端ひろ
一金一圓　同　西田ゆり
一金一百圓　全重盛街　滿洲日報社
一金十圓　同　松島宗衛
一金五圓　同　有吉熊之助
一金五圓　同　相部政太郎
一金一圓　同　保井安太郎
一金一圓　同　赤與三松
一金二圓　同平野町　山本金藏
一金一圓　同　山本さよ子

計銀二百四十四圓

通計三百〇六圓也

競爭入札廣告

一生牛皮　約三万枚

入札保證金　見積價格百分の五以上

右於大連競賣す買受望の者は大連本倉庫及營口、遼陽、奉天、鐵嶺、安東縣の各支庫に就き入札心得書、契約書案等熟覽の上明治三十九年二月二十二日午前十一時限り入札書を本倉庫又は前記の各支庫に差出す可し即時開札す

現品は大連本倉庫にて熟覽す可し

契約擔任官滿洲軍倉庫長日匹信亮

明治三十九年二月九日

滿洲軍倉庫

拍賣告白

滿洲軍倉庫長日匹信亮今聲明大連(青泥窪)本倉庫有生牛皮約計參萬張出售有願買者請至本倉庫或至營口、遼陽、奉天、鐵嶺、安東縣等各處支倉庫衙署唯照約契章程給價若干買多少開單呈遞各處倉庫衙署皆可其時先交定銀百分之五如無成局仍將原定繳還各處衙署定於明治二十九年二月二十二日(光緒三十二年正月廿九日)午前十一點鐘收單卽時拆封定局立契官滿洲軍倉庫長日匹信亮

明治三十九年二月九日

廣告

明治參拾八年十一月廿九日夜警の件に付き協議を要すへき事あるを以て日清兩國人よりの委員全部と清國營口公議會員二名とを第一派遣所內に招き協議せしめたり

最も夜警を設置したるは明治參拾八年十一月下旬にして日清兩國人の委員として夫れ〱軍政署より指名せられ其委員に於て總て其事務を擔任し來りたるも日清兩國委員間に於て是迄意思の疏通せさる爲めと側ら協議を要すべき點とにて本日特に全部召集會見協議せしめたるものなり當日日本人側より谷口今朝太郎、村山彌吉、永島貫二の三氏出席他の三名委員は旅行中又は用務の爲め欠席せられ清國人よりは全部出席せられたり協議したる件は左に

一是迄の夜警は人員不足にして未た充分に第一派遣所管內を巡視する不能依て一月一日より更に八名を增加せしめ(當時十二名)一層當派遣所管內の各衙を嚴密に巡視せしむると

一八人の增加と共に其費用も倍と增加するか故是迄日本人側より其全部費用の三分の一を負擔することゝなりをりしも(約一ヶ月百五十圓の見込なりし)一月以降は日本人側より毎月百五十圓を支出し他は清國人より支出負擔すると

但し二十人の夜巡夫は一ヶ月一人十五圓づゝにして二十人にて三百圓當地家賃油炭其他雜費等約五十圓其他柏子木角燈修理代等にて合計三百五十圓

一總て夜警に要する物品は公議會より支辨すると

一日本人側より支出する金額は其月廿五日迄に取纏め第一派遣所憲兵の手を經て公議會に交付すると

一夜巡夫の監督は軍政署に於て監督せらる

一夜巡夫に於て巡視中火災盜賊其他安寧を害する事あるを發見し特に功勞あるものは日本人側より賞與すると

右の通り第一派遣所受持憲兵井元勇馬氏立會の上決議仕候條此段及報告候也

十一月十二日決算報告

一銀二百七十五圓五十錢也　徵收高

内譯

一銀七十五圓二十錢也　十一月分夜警巡夫費
一銀百五十圓也　十二月分夜警巡夫費
一銀四十六圓三十錢也　帳簿并に廣告料及び事務員給料其外雜費

差引殘金十八圓也

右之通報告に及び候也

營口第一派遣所管內

夜警委員

御料理　滿月　平野町一八二(電話一六二)

御料理　滿月支店　平野町(元都樓跡)

今般內地より撰り拔きの別嬪數名呼寄候に付不相變御引立の程希上候

店主　青木勝惠

藝妓仲居新來御披露

此度新たに內地より藝妓仲居十數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候　草々

營口　高砂ホテル

高砂　(電話一四五)

一關內外盧漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續　但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶荷物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號

大清通運公司營口支店

特別室落成披露

座敷は凡て日本式取扱至極鄭重に可仕候間陸續御來宿あらんことを伏て奉希上候

金城ホテル旅館部

藝妓仲居新來披露

今回藝妓酌婦無類の別嬪數十名件れ參り候間不相變御引立の程奉願上候

但し凡て純粹の江戸つ子

金城館料理部

高等旅館　彌生館

營口永世街

館主　宮下只七郎　(電四一二)

Yano & Co.

矢野洋行

Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

石材、碎石
瓦、煉瓦
並に自家製造 廉價販賣

營口元神廟街四十號第二號

順吉洋行

正札特別廉價 雜貨 賣出し

一婦人髪道具一切及化粧品色々
一防寒シャツ手袋類
一靴下帽子類
一罐詰及履物
一小間物一切
一賣藥色々

質屋

永世街森病院隣

和清洋行

志田ます

風 藥

登錄商標

止咳祛痰散

哮喘氣急、多痰咯血、咳嗽痰稠、各種喉症、胃痛胸痛、甚至座臥不安、飲食不進、或嘗醫東手而藥罔效服用此散不論初起遠年立刻見效眞水火既濟之良方也

◎たんせき一切
◎肺病の特藥
◎ひきかぜ

醫藥醫料器械賣
賣藥寫眞藥

營口永世街（東順泰東首）

大阪賣東瀛大藥房

澤亀ハ醇良にして風味高尚

並に
札幌ビール
朝日ビール
政府專賣口付紙卷煙 朝日 大和
酢 醬油 瓶詰樽詰
菓子 鑵詰色々
洋酒類取次販賣

釀造發賣元

大阪府堺市九間町 本店
北海道小樽湊町 小樽支店
臺灣臺北街書院 臺北支店
臺灣基隆街石牌 基隆支店
臺灣臺南街下南河 臺南支店
北海道函館區辨天町 函館出張店
清國遼陽城內西街 遼陽出張店
清國大連監部 大連出張店
清國牛莊港東營口 營口支店

宅合名會社

會席料理 三日月

奉天日本旅館

瀋陽館

家屋宏壯清潔
接待優遇懇切

開放全時二開業
奉天小西門外大街路北

滿洲大販賣所

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店へ御來店アリタシ

遼陽停車場前 池上出張店

奉天 池上出張店

SPECIAL LIGHT

(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり
スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり
スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり

釀造元 大阪朝日麥酒株式會社

營口發賣 關東公司雜貨部

發賣
標子
木板
料木

營口青堆子

清水寧木局

譲り渡し

弊樓現在の家屋營建具付の儘讓渡し度候に付御望みの御方は至急御來談被成下度候

二月四日

平野町 春帆樓

萬事勉强乗車乗船好位置

營口中央市場前

旅館 東京樓

店主 熊田兼次郎（電話百七十八番）

即席和洋料理 東京樓支店（電話四十四番）

西洋料理仕出し御需應にす

歐米各國最新流行形

西海洋服店

永世街一四一（森病院三軒目）

（電話百二十七號）

東營口郵便局東隣

島田洋服店

新民屯停車場前

同支店

旅館 富喜樓

室内は極清潔防寒之設備あり鐵嶺驛へ滊車到着毎に日本人の案内者出張致し居候

鐵嶺城東門外南へ一丁余 南大街

樓主敬白

大日本帝國醫科大學模範藥局御用酒
攝津灘石崎合資會社釀造

醇良清酒 澤之鶴

滿洲特約大販賣

周 裕和盛號支店

清國營口西北街
電話八十一番

裕和盛本支店所在地
○本日本長崎梅香崎
○支店清國、芝罘
旅順、鐵嶺、
○支店韓國京城、仁川、木浦、

裕和盛販賣品目
○酒保用品雜貨
○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰
○洋酒食料品各種
○和洋煙草各種
○菓子類各種

澤之鶴は 既に評定ある天美錄

裕和盛は 清商中日本通の張本

和洋會席御料理

一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候

營口永世街一本町 日本館本店（電話百三十番）

奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店

各位樣

御旅館兼待合所

並にうどん、そば

今般大々的勉强を以て右營業仕候間御乘降の都度御休泊被下度奉希候

牛家屯停車場前 若松家

各位樣

宮門抄

十一日

欽天監呈進月融圖　阿王續假五日　大睦駙續假十日　榮公阿公溥倜祥齊各請假十日

召見軍機　恆安

皇上明日卯正二刻升太和殿看版

李國杰遞封奏一件

十二日

王徐中堂等同鄉官謝恩　吏部呈進春季搢紳　禮部呈進春山寶座

順天府呈進春牛圖

慶王續假五日　內務府奏派遞酒　派出貢桑諾爾布

掌儀司奏十五日早祭晚祭

奉先殿倫貝子行禮

召見軍機

皇上明日辦事後卯正二刻至　天壇上祭禮成後還宮入宗親宴

王步瀛遞封奏一件

上諭恭錄

十二日奉

上諭太常寺卿著唐紹儀補授仍着署理外務部右侍郎欽此

論說

●論理財宜用士人

有女寵之天下。有宦官之天下。有藩鎮之天下。繼其後者。乃亦有胥吏之天下。胥吏者。皆狡獪儇薄貪很齷齪不足齒之人也。而祖而父。及而身。而子孫。皆胥吏也。而戚族親友。而師而弟。皆胥吏也。內而部寺院監。外而省府州縣。皆胥吏也。胥吏之勢。足以奪其官民之氣。而使之噤不敢言。其力足以變亂祖宗之法制。顛倒天下之是非。剝斲生民之氣。而使之不可究詰。岌岌乎殆哉。胥吏之禍天下。烈於洪水猛獸也。夫胥吏之涸者利也。所以得縱其欲者利權也。使利權不歸於胥吏。而掌於士人。則財可以不竭。國可以不病。民可以不困。知此者。惟唐之劉士安乎。士安以財政專擇士人而用之。其言曰。名重於利。故士多清修。利重於名。故吏多貪污。何言之明決乃爾也。天下熙熙。皆爲利來。爲士者豈無身家之計。然一陷贓賄。則淪棄於時。士之顧惜其名者。正所以爲愛惜身家之地。吏無事也。舞文亂法。唯利是視。一旦發覺。不過斥革之而已。彼之三三其姓名者。不能革也。即革其名。而其身仍盤踞於官府。不能革也。夫人至不顧聲名。孳孳爲利。則其蠹天下。豈有既哉。放虎豹於山林。而望其無有搏噬。不能也。縱千百狡獪儇薄貪很齷齪不足齒之人於府藏。而望其無有侵漁。不得也。果深睹其弊。事雖細必委之士類。數年間戶口日增。不加賦於民而用足。其效固可操券得也。而今固不能者。不肯之臣。倚黠吏以爲奸利。其廉者又或憒於事。其明者又或拘忌於文法。而胥吏不能去。胥吏日益熾。財政日益彫。時事日益壞。吾於是不得不歎用士人。爲三代下理財之第一策也。且夫天下之物。各從其類。果士人也。必樂用士人。晚近之朝貴。亦士人也。顧樂用胥吏。誠不知胥吏於彼何親。而與之共性命以蠹天下而禍財政也。或曰漢之桑孔。所引用多富商大賈。其爲蠹也固宜。果王安石所引用如呂惠卿輩。則皆知名之士。何以蠹爲天下病。嗟呼。惠卿儇巧酷毒高係小人。然士人如惠卿者卒鮮。而胥吏之廉謹者。或千百而不得一人。兩害相權。則取其輕。故古大臣爲事。必用士人。且必擇適敏精悍廉勤之士。又何嘗漫然而用之哉。漫然用之而無所擇。則士人亦胥吏矣。

中外要聞

●日本歡迎澤欽使詳情　澤尙李二大臣赴日本情形本館已據東京專電屢誌前報茲據東京來函云中國出洋大臣澤公隨同尙李二大臣及隨員等於陽一月二十二日午前十點鐘搭乘火車抵東京新橋車站前是赴神戶迎接出洋大臣之楊欽使鍋島式部官森大佐等亦同澤公等抵新橋車站日本　皇上特派丹羽式部官迎接澤公等於車站外有東鄉大將伊集院中將安樂警視總監(猶巡警部尙書)花房宮內次官(即內務府侍郎)珍田外務部次官千家知事尾崎市長等旅有中國官紳學生二百餘名均赴車站迎接三大臣澤公等下車之後向迎接之官紳一一答謝各乘日本皇宮所派之馬車赴芝離宮當日日人赴車站欲見三大臣之行裝者有數百名實極一時之盛

●張京卿將授爲駐藏大臣之風說　政府會議邊鈌參用漢員曾紀本報茲聞政府以議約大臣張京卿蔭棠辦理英藏交涉頗能得力擬即奏請派爲駐藏辦事大臣未知確否

●黑龍江礦產交涉　黑龍江將軍有電達政府請飭外部向俄公使提議將俄人在呼蘭等處私開礦產一律交還並將鐵路附近之地俄人所佔者一律退去所有駐兵概行撤去一切地畝私向蒙旗所購者概不得爲據云云又據最近調查自庚子亂後俄人在黑龍江境內私佔金鑛開採者共有六處大致如下觀音山都魯河發比剌河漠河尙有二處未詳現在已由黑龍江將軍奏請一面請飭外部照請俄公使飭令交回一面由黑龍江派員前往勘看設法收辦俟俄兵去盡後即派員接章周赴黑龍江全境攷察各礦次第　云云

●日本新艦之調查　日本政府前由戰時軍款中提出鉅貲以備建造各種兵艦各情已誌前報茲得確實調查共訂造戰艦二艘裝甲巡洋艦四艘巡洋艦三艘驅逐艦二十九艘總計噸數約有八萬九千餘噸業已陸續造就茲將其起建工程日期及各艦載重噸數列下　戰艦安藝號載重一萬九千噸現時業已起工建造　戰艦薩摩號載重一萬九千噸現時正在吳港建造　裝甲巡洋艦筑波號載重一萬三千噸已於去年西十二月行試水大典　生駒號載重一萬三千噸當於本年西三月入水　伊吹號載重一萬三千噸當於本年西八月入水　鞍馬號載重一萬三千噸現時正在橫須賀軍港建造　巡洋艦利根號載重二千五百噸淀號載重二千五百噸　最上號載重二千五百噸現時均在某軍港起工建造

●鐵尙書最近政策　日前戶部鐵尙書與政府會議整頓戶部事宜聞已決計先將書吏裁汰一半至十四司所管事務繁簡不一擬即分別裁併改設四局並奏請將財政處歸併戶部改戶部爲財政部以一事權俟開印後仍須傳集本部司員商酌辦法然後奏請實行

●裁撤禁旅之大概　八旗暨前鋒護軍裁併一事現經政務處議覆奉　旨發抄行知各旗營原擬約數千言茲特摘其由列後(一)用京旗陸軍隨　扈護駕(二)裁撤弓箭及各項匠役(三)前鋒護軍親軍改爲護衛陸軍(四)前鋒護軍大小官員年力富強歸陸軍年老撤回本旗以對品互相更調其兵丁年老歸本旗更換甲額(五)揀選侍衛由陸軍世職內挑取照古制二年挑補一次(六)禁內值班前鋒護軍裁撤用京旗陸軍入值京旗調回京師再行請　旨(七)各旗挑補官兵各缺以文字氣槍兩項爲定衡(八)大挑營官(即副參遊等缺)由陸軍內拔選　小挑營官(都守千把等缺)全行停止(九)世職不入學堂給以半俸入學食全俸(十)世職佐領入學三年畢業方准承襲否則另選(十一)綠營改練槍砲

叢談

身體

吾人一身皮膚　有孔竅二百萬有奇　爲出汗之處　故有二百萬有奇之孔竅　卽有二百萬有奇之汗腺(凡體內覆肉含有汁液者皆曰腺故唾有唾腺乳有乳腺即肝臟脺臟亦無往而非腺西名格蘭德今從　譯作腺)吾人全身骨胳中可清數之骨有二百餘具　全身之血　每一分鐘中　則經心　周　人肺之全容量　約三百二十立方英寸　通常每一呼吸　其出入空氣　約有一本脫　(約三合一勺有奇)之三分之二　胃中每日可出汁九磅　賴以消化食物其容量約五本脫　(共計一升五合五勺有奇全身筋肉共有五百餘塊　神經及血管之數同之　人心重量　自八盎司　(一盎司約八錢二分二釐有奇)　至十二盎司不等　每於二十四點中　共跳十萬次　每一汗管　長四分之一英寸　通計約長九英里　中人飯食每日須五磅半　通一年計之　耗液體凝體滋養物　可至一噸　凡人吸氣一分鐘中可十八次　一點鐘中　吸氣三千立方英尺　約計之　即二百七十五好客司海特也　(每好客司海特約一石三斗一升三合六勺有奇)　成人於一呼吸間　可吸入空氣一本脫　吾人於一分鐘中吸氣自十六次至二十次不等　即一日中有二萬次也　童子於一分鐘中　則自二十五次　至三十五次不等　立時成人呼吸二十二　睡時三十　肺之外面　即形如蜂窠之隙處　共二百方碼　人於二十四點鐘中所吸空氣　共計一萬里德　(每一里德合我國二十九立方寸零七九一)　人於二十四點中　所吸養氣　共五百里德　所吐出炭酸共四百里德　自下午六點起　至上午六點止　此十二點中　所吸養氣　居二十四點中所吸五百里德養氣之三分之二　日間所吐出炭酸　居二十四點中所吐四百里德炭酸之五分之三　肺之外面　每日出蒸水五十格耶姆(一格耶姆合二分六釐零四六六八四)　成人於每一點中至少吸空氣三百六十里德　心臟於每點中　送血過肺凡八百里德　每日送血過肺凡二萬里德即五千嘎倫也　凡吾人一呼吸間　呼之時居十二分之七　吸之時居十二分之五　然吾人睡眠時　則吸之時居十二分之丁

NEWCHWANG, FRIDAY, FEB. 9, 1906.

THE "VICTORIA ROAD INCIDENT" (Part III).

Being a good friend of China, would it be possible that the Briton could not see what made the Viceroy define his attitude as he did, and, seeing, could he help feeling the frozen pride within melt to a warm sympathy kindled ablaze, and, feeling, could he ruthlessly still a spontaneous cry rising from the bottom of his softening heart—a cry which can issue only out of a generous and chivalrous bosom, but never from a sordid, vindictive, or cowardly one—that swells in volume louder and louder, insisting upon a recognition? That cry is for conciliation and tolerance such as a Brutus might concede to a Cassius, yet which, to a man of less moral or mental calibre, is a grace unknown and unappreciative as sound is to the deaf or light to the blind. We trust implicitly that an appeal for such conciliation and tolerance, and nothing less than that, had moved the B.M.C. to offer a sacrifice, a costly one it is true, yet one the proud Briton may well afford to bear without a hurt to his pride. We trust also that the Council could see no other conceivable way to solve the impending problem, and had graciously decided upon this only recourse left to it.

The costliness of the sacrifice is all too obvious on the very face. It apparently meant the surrender of a British public servant to the Viceroy for punishment. A man on whom British jurisdiction had a logically exclusive claim had to be given up into the clutches of Chinese law. The jurisdictive rights that stand independent of all others—the American, French, German, Russian, Japanese or any other and the Chinese, first of all, due to the extra-territosial disability—were to be abrogated, in this particular case, in favour of this Chinese code. Was this not the overriding of British jurisdiction by Chinese law of all laws? What, if this were to be established as a precedent? The very idea must be untenable in the highest degree to the British mind especially and to every rational conception, not even omitting Chinese either. And in this light, the idea must be rejected as the most preposterous one. A sacrifice which demands the materialization of such an idea is fatal to British prestige and too costly to be offered.

How is it then that, to our conviction, this particular sacrifice proffered by the B.M.C. was indeed costly but has not hurt British pride at all? How can this seeming self-contradiction on our part be satisfactorily explained, to clearly show that there is nothing contradictory between the impeachable logic evolved above and the procedure of the Council? On this satisfactory explanation, hangs what little merit we might lay claim to our argument.

Let us be calm that our minds may not be prejudiced by unworthy sentimentality. Let us coolly weigh the actual cost of this particular sacrifice. It was not a Briton that has been given up. It was a Chinese. The Chinese is not a naturalized British citizen. To a British citizen, native-born or naturalized, the logic above developed applies to the full. The man surrendered had been a British public servant. But he was no longer one when actually given up. Hehad been first dismissed from British service. The Council deserves every credit for this happy stroke of good sense that constituted the knack of reducing this intricate knot to a soluble one. *That noteworthy moment made all the difference.* He was then a Chinese subject liable only to Chinese law, and wholly out of the pale of the logic in question, which, in fact impeachable as a theory, does not cover or even touch his case in the least. The sanctity of British jurisdiction has not in consequence suffered at all. Neither can British pride have. Is this not plain?

The delivery of a Chinese subject, but not a British public servant, any longer was no sacrifice to speak of. The net cost of the sacrifice consists in the apology tendered to the Viceroy and the dismissal of the policeman under those circumstances.

Dr. and Mrs. Daly started last Wednesday morning for Tientsin and Peking on a visit which may take some 10 days.

Dr. McDonald Westwater of Liaoyang is at the port and a guest at the 'Stone House.'

營口旅館料理店案內（いろは順）

旅館　第一營口ホテル　元神廟街九十六號

旅館　第二營口ホテル　河岸通り

料理　第三樓　元神廟街三十二號　店主　粕屋忠兵衛

料理　入船亭　永世街百八十三號　谷初次郎

旅館　日營ホテル　河岸通り　店主　井上源吉

料理　東京館　永世街八十六號　店主　村上京四郎

旅館　東茂旅館　西北街百七十三號　正金銀行西三軒

料理　沖の島　永世街百六十五號　店主　中川三郎

料理　吉野亭　永世街八十六號　店主　坪田正好

旅館　竹村館　永世街二十二號（電話五一）　店主　麻田久二

旅館　大和館　永世街十一號　店主　前田九一郎

料理　滿洲樓　南永世街第十號　店主　直塚勝一

料理　萬梅　豊濟門街第百〇四號　店主　田島彌助

御料理　まんなをし　永世街字二本町二百五十九号　元吉田屋跡　店主　和田常松

料理旅館　醉花園　澁谷旅館　永世街百二十七號　店主　澁田留吉

旅館料理　金城ホテル　永世街百六十六號　第二金城ホテル　永世街百六十六號　店主　齋藤富次郎

旅館　東雲旅館　永世街七號　店主　谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館　東雲　主任　谷口今朝太郎

さるそば　第一更科　きるそば　第二更科　營口元神廟街　永世街鶴の湯角

和洋御料理　第二東京館　元神廟街　店主　松田平四郎　東京一流　かき飯

御料理　柳亭　豊濟門街二三　店主　玉岡金人　叮嚀專一

御料理並ニ溫泉　一力　營口永世街　店主　堀万助

和洋料理　本店　松月亭　營口元神廟街一四三號

和洋料理御旅館　支店　滿洲ホテル　遼陽西街西門一一七號

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業　日營ホテル支店　主任　井上源吉

御料理會席　菊水館　主任　朝枝園攄

旅館西洋料理　遼陽館　主任　永瀬宇吉

旅館料理業　公陽館　主任　宮川秀基

御料理會席　末廣屋　主任　山根初之亟

御料理　凱旋亭　色々應御注文　主任　古谷庄太郎

旅館御料理　遼塔ホテル　主任　木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル　遼陽倶樂部　營口東雲館支店　主任　谷口今朝太郎

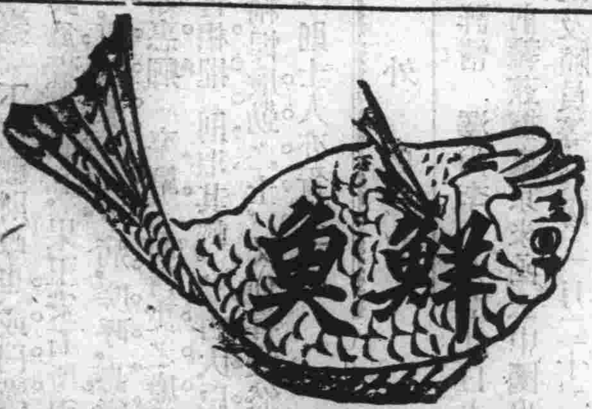
會席御料理　玉家　主任　西野治三郎

御料理會席　來々亭　主任　石田清

料理　御燒　喜樂亭　營口元神廟街　亭主　元權吉

諸鐵工製作　鑛山船舶機械鐵工　郵便鐵道附屬鐵工　土木建築用鐵材料　其外鑄物諸般
（營口鐵定門街ブツシ商會東）
川喜鐵工塲

發賣　材木　標子　木板
塩川商會
清國營口二本町二五五號
主任　鹽川峰吉（電話一三六番）
遼陽小西門內　鹽川商會
建築用材外に電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本餘　北海道產松大角（自廿五尺至三十尺）二万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也



弊店儀雜貨專業之處今般業務擴張の上日本は勿論滿洲に支店を設け併て鮮魚の御小賣充分勉强の上御用達可申候間倍舊の御用命被仰付度奉願上候　敬具
營口南永世街百廿七號　森屋洋行
大連大山通り二丁目　仝支店
遼陽西門外　代理店　林洋行
奉天小西門外（電話十七番）　代理店　米田洋行

御旅館　天津　駐屯軍御用並西洋料理　芙蓉館（電話四十一番）

北京　扶桑旅館　東單牌樓大街路西　客室清潔料理鮮新

御旅館　豊陽館　上海（電話一〇六番）　日本郵船會社荷客取扱　歐米滊船乘船取扱　館主　米田藤吉

SK
軍票騰貴致候に付弊行正札價格より五歩引を以て御用達可申候
銘酒菊正宗新着!!
尚最上日本白米及マッチ新荷着仕候
雜貨商　加藤洋行（營口電話八十番）
本店　天津日租界
支店　營口　北京　大阪
出張所　遼陽

工
營口元神廟前（電話百三十五番）
飯塚工程局材料部
弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、砕石、煉瓦等
一日本石炭數種

雜貨　醬油　味噌　清酒
營口西北街　阪神組

○上等石炭　一噸に付　銀十六圓
○上等日本米　一石に付　銀二十圓
○板材木　○木炭
○亞鉛板　○洋釘
○干鹽魚　○石炭
喜久洋行
永世街八十號（電話百五十二番）
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也

大連　東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

爲替相場（二月八日）
上海は百圓に付六十七兩二錢五分
天津同は百圓に付一百〇八元五圓五十錢

日本品最近物價表　加藤洋行調査
菊正宗　三斗九升入　銀二十圓
櫻正宗　四斗四升入　同十七圓
ラッキョ　四打入　同十三圓
辛子漬　五打　同十四圓五十錢
フキ　四打　同九圓五十錢
仝　同八圓
鷲ミルク　仝　同十八圓
石炭　一上等塊炭　一噸ニ付　銀十八圓（飯塚工程局）

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.

本紙定價
一枚ニ付　銀四仙
一ケ月前金　銀八十仙
半ケ年前金　四弗八十仙
一ケ年前金　銀九弗六十仙